

ラオスのこども通信

40号
2007年 8月発行

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603



特集 出版のあゆみ 127タイトル、60万冊……2

- ラオス事務所スタッフ来日研修……4
- CCC 評価会議を開催……6
- ラオス事務所ニュースレター2号……7
- インタビュー/コンクール入賞者……8
- 国内の活動……9
- 事務局より/NGO ネットワーク……10、11
- 寄付者・協力者のみなさん……12



出版のあゆみ、 127タイトル、60万冊

1982年、日本の絵本を集めてラオスの小学校に送る活動をスタート。そこから25年という月日が経ち、今では数多くのラオス語の絵本や本が生まれました。ラオスの子どもたちにしっかりと読み継がれている本の数々を振り返ってみます。



子どもたちのキラキラと輝く瞳、たくさんの未来が見えてくる。

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

出版のあゆみ、127 タイトル、60 万冊

1982年、バザーで日本の絵本を集めてラオスの小学校に送る活動を始めました。団体名もずばり「ラオスの子供に絵本を送る会」。その後、ラオス語の絵本や本の出版を始め、今日までの出版点数は127タイトル、60万冊になりました。ラオス全国の小学校を中心に配布し、子どもたちに広く読まれています。

スタートの頃

◇ラオス語の本を出そう！

ラオスに送る絵本などを集めるためにバザーを開くと色々な（ときにちょっと困る）不用品が届きました。その様子をメディアが報道し、更に本の出版費用の寄付を募ったところ、個人の方から寄付が寄せられ、会にとっての最初のラオス語による出版が実現。日本の作家による作品の翻訳出版『ビックリ星』（作：田島伸二）でした。国際識字年の1990年のことでした。



数字絵本(左上)、文字絵本(右上、下)

◇ラオス人作家の作品を出版

同じく1990年に、ラオス人による、ラオス人におなじみの話を出版しました。『カンパー・ピーノイ（孤児と小さなおばけ）』（文：ドゥアンドゥアン、絵：サヴァイ）などです。

さらに、ラオスの誰でも知っている英雄伝『シンサイ』（文：ウティン、絵：コンパット）。古語の詩で描かれた話を現代語にして1993年に出版しました。

これらは人気が高く、再版を繰り返しました。

◇絵本づくりセミナーをヴィエンチャンで

1994年、会が初めてカラー印刷で出版したのが、創作絵本『金色の猫』（文：カンカム、絵：コンレー）。猫をどうやって退治するか、ネズミが考えるお話です。

この年、絵本づくりセミナーを開催。『こぐまちゃんえほん』シリーズでおなじみの絵本作家、わかやまけんさんを講師にヴィエンチャンで、幼稚園の先生や絵の好きな人々を集めました。水彩絵の具、切り絵などで合作し、ブック・デザインは日本で大竹雄介さんに依頼。タイで印刷し、1997年、『文字絵本』ができあがりました。

幼稚園の先生方の参加した動機は、子どもたちに読み聞かせる本が欲しいという気持ちから。一方、ラオスの作家協会の人々は絵本への理解がなく、出席せず。わかやまさんは、「絵本は子どもへの、お母さんの優しいことば」と受講者に語りました。研修後、絵本を作る人も出ています。

◇子ども向けのイラスト入り辞書を出版

ラオス初の子ども向けの辞書、『絵解き辞書』（文：ドゥアン、ドゥアン、絵：ヌーポン）を1995年に出版。日本のTV番組「世界ふしぎ発見！」でも紹介されました。

改訂版が2005年に出され、カラー写真を多用して、地理なども学べる百貨事典風となって内容が充実しました。合わせて約2万3000部作られています。



ラオス初の子ども向け辞書

今日に至るまで

テーマ性や読み応えのある作品を

◇コンクールで作家発掘

『文字絵本』はラオス語のアルファベット1文字ごとに絵が描かれた作品です。第3巻は挿絵をコンクールで集め、出版しました(1997年・1、2巻 2000年・3巻)。

作家発掘をめざし、2001年、「あなたの村の民話を絵本にしませんか」と民話絵本コンクールを行いました。二十数点が寄せられ、3作品が入選。福音館書店の「こどものとも」の編集者の井上博子さんに場面展開など編集面上のアドバイスをしていただきました。作品は日本とラオスを行き交いながら修正し、2002年に出版しました。



トゥーノイヤー

【例】『トゥーノイヤー』(文:ウッタイ、絵:ヴッティ) 『孤児と魔法のドラ』(文:テップヌハック、絵:ヴォンサヴァン)

◇交通安全、環境をテーマに

社会生活をテーマにした本も出しています。『正しく走ろう』(文:ウティン、絵:セーングン)は交通事故防止を訴えて1990年と2002年に、リサイクルによる工作を紹介する『ぼくを捨てないで』(文:カンカーブ、絵:セーングン)を2002年に。ゴミ問題を分かりやすく説いた「ぼくはどこにいくの?」(文:森透、絵:やべみつり)も2004年に出版しました。



正しく走ろう(1990年)

◇中学高校生向けの本

中学高校生向けの本への要望がしだいに高まり、2006年には『ガンジーの生涯』(訳:オートン)やコンクール入賞作品をまとめた『ともだち』を出版しました。



ガンジーの生涯(上)ともだち(下)

◇翻訳に力を入れ、質を高める

タイ語版を読んで感動したラオスの作家が、ぜひラオス語版をと、1999年に出版したのが『窓ぎわのトットちゃん』(作:黒柳徹子)です。質の高いもの、中高生向けの読み応えのあるものを翻訳して出しています。2003年には『星の王子さま』(作:サンテグジュペリ)を翻訳出版。現在、『五体不満足』(作:乙武洋匡)を翻訳中です。

会では、今後、出版の質向上に力を入れていく考えです。2007年7月には作家育成講座を開催。翻訳の点数も増やしていきます。

出版には、個人や団体、企業、ODA、欧米の団体や政府などの支援を受けています。今後ともよろしく願いたします。



星の王子さま

ラオス事務所スタッフが来日！

5/16～24の9日間、ラオス事務所スタッフ3名が来日しました。来日の目的は、会の次期中期3カ年計画策定会議に参加すること、日本の出版社や児童館、図書館などを訪問し、ラオスの活動に活かすことです。



成田空港に到着

来日したのは、ラオス事務所コーディネーターのミンクワンカム（通称ミン）、出版担当のスラピー、CCC活動担当のチャンシー。スラピー以外の2人は、タイ以外の海外は初めてのこと。今回の来日の様子を紹介します。

●初日

事務所の最寄りの駅に着いて、ミンが「街はどこ？」と言。まずは高層ビルを想像していたよう。事務所に入ると、「東京事務所が狭いって聞いていたけど、思ったより狭いね～」と驚きの表情。東京事務所は、パソコン2台分の機のスペースとイベント用の荷物置き場の場所だけ…部屋は間借しているのです。

今回のスケジュールを確認すると、土曜日は中期3カ年計画策定会議、日曜日施設見学、その他も訪問や会議など、スケジュールはみっちり。

初めての訪問先は、事務所近くにある南馬込4丁目児童館。到着した時はちょうどおやつの時間でした。スタッフたちは、この時間にとっても興味津々。その後、図書室や工作の活動、ボール遊びの活動などを見学し、いろいろと質問をしていました。

彼らにとって、印象的だったのは、子どもたちと先生との関係。ラオスの先生とは、子どもへの接し方が全く違うとか。児童館では、先生が子どもと信頼関係を保つなかで、子どもたちは思



学習院女子大学で講義

いっきり遊ぶことができる、子どもたちの居場所になっていると感じたようでした。

＜ラオス事務所スタッフ滞在日程＞

2007/5/16-5/24

- 5/16 成田空港到着、大田区南馬込四丁目児童館視察
- 5/17 福音館書店訪問、東京学芸大付属大泉中学校視察
- 5/18 大田区立梅田小学校視察、学習院女子大学にて講義
- 5/19 中期3カ年計画策定会議
- 5/20 (茨城県自然博物館など)見学
- 5/21 あげぼの幼稚園視察
- 5/22 三井住友銀行訪問、国際子ども図書館、上野動物園見学、活動報告会
- 5/23 事務所会議、大田区立浜竹図書館視察
- 5/24 ラオスへ帰国

●出版社、学校図書室を訪問

絵本専門の出版社「福音館書店」を訪問し、編集者に絵本の具体的な編集過程や編集者の役割などを説明してもらいました。「うまい絵がよいとは限らない」「子どもは、絵本の印象を内容ではなく、読んでもらった状況で記憶に残す。大好きな人に絵本を読んでもらった思い出が、愛されていたという思い出になる」という言葉がとても印象的でした。

ラオスでは、今やっと絵本が出回り始め、質よりも量が優先という状況。時間をかけて本を作っていくという方法は難しくても、仕事の丁寧さや重要さは実感したようでした。

昼食は池袋へ。「東京と言えば、高層ビルと大勢の人間」というイメージの彼らにとって、「これぞ東京」という雰囲気で大満足。平日の昼間なのに、駅には人がたくさん。「お祭りみたいだね」と笑うスタッフ。

午後は、東京学芸大学付属大泉中学校を訪問。タイの難民キャンプで図書館活動をしていた方が、現在は司書として



東京学芸大付属大泉中学校にて

働いています。入り口でかわいい猫の絵が出迎えてくれました。生徒による紹介文付き本の展示、表紙が見やすいように工夫された本棚など、生徒が図書室に入りやすく、本に興味を持つようと、室内のレイアウトや飾りに、様々な工夫が施されています。スタッフらは、限られたなかで工夫する熱意に感動。ラオスでも参考にできるアイデアです。帰国後、スタッフは早速ラオス事務所内の図書室の改善を始めました。

●小学校の授業見学

大田区立梅田小学校を訪問では、副校長の案内のもと、校舎内を見学。1年生の教室では、ちょうど国語の授業。きれいな挿絵がたくさんあるのを見て、「絵本？」と聞くスタッフ。「教科書だよ」と答えると、「へえ〜。絵本みたいだね」と驚きの表情。ラオスの小学1年生の教科書は、文字ばかりで絵が少し。だから、教科書とは思えなかったようです。

また、子どもがスラスラと文章を読む姿に感心。「入学する前に自分の名前は書けるようにと両親に言っています」の説明に、「ラオスでは、読み書きは学校で先生に教えてもらうもの。日本では、家で両親が教えているのですね」と感心していました。



三井住友銀行へ学校図書室等の支援事業を報告

●ラオス人スタッフによる活動報告会

広尾の「JICA地球ひろば」で、活動報告会を行いました。

共同代表の森が聞き手となり、ラオス人スタッフ3人が答えるというインタビュー形式で活動報告を行いました。

「子ども文化センター」の具体的な活動内容や青少年ボランティアによる出前活動などの様子。読書推進活動では、活動を積極的に進めている教師らの取り組み。また若手作家



あけぼの幼稚園で子どもたちと過ごす

対象コンクールの募集方法や応募作品数、審査方法など、それぞれの事業について、具体的な詳細を報告しました。時間が少々短かく、もっとスタッフの声を聞きたかったという声もありましたが、実際の現場を担う生の声を多くの方に聞いていただきました。



懇親会で記念撮影

(報告：猿田由貴江)

■日本に来てどう思った？

○ミン

「学校は図書室のための予算がきちんと確保され、日本の政府や学校は読書の意義を理解している。訪問先の担当者は皆熱心に説明し、他に質問はありませんか？と聞いてくれた。おかげでとても満足した。ラオスは説明したがる人ばかり。日本人は違うなと感じた」



○チャンシー

「時間の感覚など、ラオスとの違いを実感。そして、東京事務所の狭さにびっくりした。中学校の図書室では、いろいろ工夫してあり、とても参考になった。幼稚園では、植物の成長を触らせて実感させ、素晴らしい。印象に残ったのは自然博物館。いろいろな自然のものを学ぶことができて面白い。1日では全部見ることは出来ない。地球上の生命の誕生はとても興味深かった」



○スラピー

「図書館では、システム化された管理に興味があった。浜竹図書館で見たおはなし会は、とてもよい活動だと思った。出版社では、編集者の仕事の多さ、丁寧さを実感。幼稚園では、たくさんの活動を見せてもらった。今回いろいろなアイデアをもらった。日本人の仕事の仕方は、ラオス人と異なる。日本人は時間をとても有効に活用していると感じた」



CCC(子ども文化センター)評価会議を開催

2007年3月26日～30日(5日間)に、ヴィエンチャン都子ども教育開発センター会議室にて、全国の子ども文化センター(CCC)、子ども教育開発センター(CEC)を対象とした評価会議を行いました。

子ども文化センター(CCC)は、当会代表とラオス人が発案し、「ラオスの学校教育では行われていない、情操教育に接することができる施設をつくり、子どもたちの教育環境を変えよう」と1994年に設立されました。最初のCCCが設立されてから、今年で13年になります。

その後、高い評価により、情報文化省に中央CCC局が設けられ、現在は公的な活動として全国に広がり、現在、ポンサリー、ルアンナムター、セコン以外の13県にCCCが設置されています。(※子ども教育開発センターCECは、教育局管轄の施設として、2005年にヴィエンチャン都に初めて設立されました。CCCの活動を受け継ぎつつ、教員研修や学校とのネットワークを生かすことで、活動がさらに広がっていくことが期待されています。現在は、ヴィエンチャン都とサイヤブリ県の2箇所にあります。)

このように、CCC活動が全国に広がり、根付いていくことは好ましいのですが、近ごろ、CCCの役割や目的に対する考え方に少々バラツキが出ていること、また、スタッフの入れ替えなど、活動の質が下がってきていることが、指摘されるようになっていました。

そこで3月、CCC活動の理念、目的などを再確認し、よりエネルギーのある活動となるように、全国のCCC、CEC(以下、センター)館長、各県の情報文化局CCC担当職員を対象に、評価会議を行いました。会議にはCCC館長18名、CEC館長1名、CECスタッフ1名、県情報文化局職員11名の計31名が参加し、早朝から夜まで、発表、討議、研修が続くという、大変熱心な会議となりました。

会議は、各センターの設立の経緯、運営状況、うまくいっ

ている点、問題点、その解決法などを報告し合い、話しあうことで、センターの目的や役割を共有認識とし、次のステップをそれぞれが見つけてゆくこと。運営管理ノウハウ、計画化、文書化、資金調達方法などを経験から学び、共有化していくことを目指しました。

会では、CCC活動の質を確保する目的で、今回会議で話し合われたこと、紹介されたことなどを含め、CCC活動ハンドブック(運営の手引き)を作成し、全国に配布します。

☆会議の中で活動の成果、期待として次のようなことが挙げられています。

- ・子どもたちが読書によって社会マナーを身につける
- ・子どもの権利の普及、センターと社会との子どもたちの連帯を促進
- ・麻薬や人身売買などの犯罪から子どもたちを遠ざける役目
- ・子どもたちが国の文化の担い手になる
- ・子どもたちが自分を表現するための知識や能力を身につける

★一方、課題としては

- ・活動の目的や役割がクリアではない
- ・センターに関わる人材(量と質)の不足
- ・場所や予算の不足
- ・社会の中で、役割を理解している人々が少なく、支援が得られない

☆そして、その問題解決方法として

- 【公的レベル】・各センターで地域にあった役割を明確にする・建物、場所、予算、資財を確保する
- 【センターレベル】・センターは役割、責任を決め、センターの継続かつ自立のための効果的な方法を考える・スタッフの質をあげる
- 【社会レベル】・人々が子どもたちをセンターの活動に参加させようと思える機会を増やす・考えや意見を共有し、センターの予算を支援してくれる人々を増やす・支援してくれる団体を組織する

会は、今後のセンターの自立と発展を意識して、これまでのように、毎年、同じように支援をしていくのではなく、各センターに、今まで以上にきちんとした計画書(プロジェクトの背景、目的、場所・期間、内容、問題点、解決方法、求められる成果など)・予算書の提出を求め、内容のチェックを行い、支援の決定を行っていきます。今後は、規模が大きいセンターの人件費は削減し、規模の小さいセンターや新しいセンターの支援を増やしていく方向に転換。スタッフをはじめ、地域関係者がセンターの目的や役割を理解し、子どもたちの参加度が高く、積極的な職員がいるセンターに支援をしていきたいと考えています。

(支援：日本国際協力財団)

(報告：ミンクワンカム、猿田由貴江)



CCCセミナーの参加者たち

若手発掘！創作文学コンクール3部門に入選！

聞き手：森 透

2007年3月、「若手作家・創作文学コンクール」がラオスで行われ、短編小説、評論、エッセーに計228点の応募がありました。これら3部門をソックパンサーさん(学生・21歳)の作品が総なめしました。



サムヌア生まれ、2歳でヴィエンチャンに。名前の意味はソック(幸せ)、パンサー(雨)で「幸せの雨」。雨の降らない4月生まれ。父は軍の学校の教員。ヴィエンチャンのシンガポール・ビジネスカレッジ(短大)で英語を専攻。卒業後は留学を志望し、将来はジャーナリストをめざす。21歳。

ソックパンサー・ブーパースックさん

——入選作品について教えてください。

短編小説『十月一日』は母と子どもの話です。お母さんがちょっとユニークなんです。

——どんなふうに？

子どもに期待をかけ過ぎず、ありのままを受け入れてくれるという人物設定です。なかなかいないんです、そういう親は。

——ソックパンサーさんが、この作品を一番読んでもらいたい相手があった気がします。お母さんは読みましたか？

長すぎると言って読みませんでした(笑)。

友だちにはロマンチックな話は書けないの？と言われてました。男女の話を書こうとしているうちに、いつの間にか、母親と子どもの話になっちゃいました。

——評論は？

『学校を抜け出す生徒たち』という題で、今、高校で先生が駐輪代を生徒から毎日徴収していることについて書きました。これでは生徒が学校に来る気をなくします。抜け出す生徒たちは、クルマでどこかに行ってしまう金持ちの子もいれば、友人の家でビールなんか飲んでいる子もいます。大人の真似です。

——誰に読ませたい？

大人たち。新聞や雑誌に投稿しましたが、載せてもらえませんでした。文章を直しては送りましたが、だめでした。

——エッセーは？

『私も勉強したかった』というもので、高校を出てラオスに来て工事現場で働いているベトナム人の若い女性のことを書きました。雨宿りをしていたときに知り合って話を聞い

たのです。彼女は休み時間に熱心に勉強をしていました。ラオス人は見習わないと。

●締切前日に募集を知って

——応募のきっかけは？

乗っていた自転車のチェーンが外れて、直そうと降りたところが、ラオスのこどもの事務所の前で、掲示板に募集のお知らせが貼ってあるのを見ました。ここは弟が本を借りに来ていました。

それが締切前日。後で電話して「2、3日待ってください」って泣きそうな声を出してお願いしました(笑)。

——作戦勝ちだね。入選理由は、ラオス語がきちんと書かれ、著者の考え方がしっかりと伝わってきたことですよ。発表前、審査員で作家のデュアンドゥアンさんから電話があつて話を聞きたいというのです。『学校を抜け出す子ども』など社会批判を書いているので、問いただされるのかと思ひ、言い訳を考えながら会いに行きました。ところが、「とてもおもしろいね」と言われ、びっくりしました。

●ラオスの詩、シンサイはすばらしい

——本は子どものころから読んでいたの？

ええ。叔父が作家で(カントーン・スックルアンカムさん)、叔父の家には革命の文学や軍人向けの雑誌がありました。

——子ども向けの本はあった？

大人向けだけ。でも、レーニンの生い立ちとか面白かったですよ。ロシア語の翻訳で、ブックという子どもの一人旅のファンタジーは読みました。おじさんやおばさんの家のほかは、中学高校に図書室はなく、まことに図書館があつても大人向けで、行きませんでした。

——ラオスの国語教育について思うことはある？

教科書をきちんと教えられない先生が多く、授業がつまらないんです。暗記させて試験でいい点を取るための授業で、自分の自由な意見は聞いてもらえません。そんな中で、よく覚えているのは英雄伝のシンサイの詩の授業。みんな一度でその詩が好きになりました。場面が目には浮かんで、すばらしい詩です。

——文章の書き方は誰かに教わった？

高校時代に学校の先生が指導してくれました。そのおかげです。

——ありがとうございました。これからも期待しています。

国内の活動

2007年3月～5月

サバイディー・ピーマイ・パーティ 2007

2007年4月21日(土)に、大田区池上の区立池上会館で、「サバイディー・ピーマイ・パーティ」が開催されました。

大会主催のラオス正月を祝うイベントには、一般客やボランティア、ラオス人留学生ら合わせて157人が参加しました。チャンタソン代表と赤井朱子スタッフ(前ラオス事務所駐在)による第一部対談からスタート。「ラオスのこども」のこれまでの活動やラオスでの子供たちの状況などを伝えました。

パーティ形式の第二部では、和やかな雰囲気の中、ラオス料理やデザートを堪能。ラオス人留学生が、歌や踊りの披露で会場を沸かせたり、参加者はラオス物産の買い物を楽しんだり。また、ラオス語の図書出版物紹介や学習院女子大学のスタディツアー報告、ラオス語絵本づくり、抽選会など。ラオスの多彩な魅力を楽しめる1日でした。



チャンタソン共同代表とラオス人留学生たち

イベント

ご来場、ご参加、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

●親子の「食&国際貢献ボランティア」体験
3/31 キッコーマンKCCホール(東京都)
主催：キッコーマン(株)

お菓子作りや絵本を通じ、ボランティア体験を親子で楽しむイベント。当会はラオスの子ども達の様子について映像での紹介、クイズや絵本づくりを行い、ラオスの教育状況やNGOの支援活動を伝えました。

●おしゃべり国際交流クッキング
5/27 ラオスのおもてなし料理とスイーツ

池上会館で開催。色鮮やかなラオス料理は野菜をたくさん使い、とてもヘルシーと好評。メニューは、鶏肉とタケノコのココナッツカレー、ニンジンサラダ、ナムワン(ココナッツミルクとかぼちゃのお汁粉)でした。24名が参加し、ラオス料理が初めてという人でも手際よく作業を進めることができました。

ラオス語絵本プロジェクト

●キッコーマン株式会社
3/2 キッコーマン(株)東京本社
3/12 キッコーマン(株)高砂工場
3/16 キッコーマン(株)野田本社



合計270冊のラオス語絵本が完成!

●住友商事株式会社
4/24 住友商事(株)本社

例年社内イベントとして絵本づくりを行ってしています。約9割がリピーターという凄さ。今年是一般絵本と共に、同社オフィスビルのマスコットイルカを主人公にした絵本「イルカのトリトン」にもラオス語翻訳を貼りました。

その他

- 対話プロジェクト
3/13 桐朋学園小学校
3/21 武蔵工業大学
ラオスと日本の小学生や学生がPCを使い、同時中継で交流。
- いのりんぴく2007バザー&フリーマーケット
5/3 池上本門寺朗峰会館
活動紹介ブースなど。
- ラオスと日本の子どもの絵の交流展
4/21-5/10 青山こどもの城
市民の芸術活動推進委員会主催。ラオス民具や教科書等を貸出協力。
- 大田国際交流週間
5/26-6/2 大田区池上会館ホール
ラオスのこども活動状況の展示。



事務局より

＜ラオス事務所の動き＞

- 3月
3/1-3 中部HAフォローアップセミナー＜ヴィエンチャン都＞
3/7 HA活動状況視察＜サワナケート県＞
3/9-11 南部HAフォローアップセミナー＜サワナケート県＞
3/13 対話プロジェクト＜桐朋学園小学校＞
3/21 対話プロジェクト＜武蔵工業大学＞
3/23 JICafe1周年記念行事出席（ミン・チャンシー・猿田）
3/26-30 CCC評価会議（チャンタソン・野口・猿田）

- 4月
4/6 ピーマイバーシー（ラオス正月イベント開催）
4/9-11 HA開設＜ルアンナムター県＞
4/10 シーサタナーク CCC訪問（チャンシー・猿田）
4/14-18 ピーマイ（ラオス正月）休暇
4/17 猿田一時帰国 ～5/27

- 5月
5/15-24 スタッフ来日（ミン・スラピー・チャンシー）
※HA=ハックアーン（学校図書室）
CCC=子ども文化センター

□訂正とお詫び

前号39号2頁グラフ「当会収入の内訳」で訂正があります。正しくは以下の通りです。お詫び申し上げます。
政府系助成金 20,157,867 円(45%)、特別寄付 5,553,115 円(12%)、民間財団 3,870,750 円(9%)、一般寄付金 3,982,465 円(9%)、企業・団体 3,709,661 円(8%)、指定募金 2,932,000 円(7%)、イベント物販・雑収入 3,220,696 円(7%)、図書譲渡 1,117,985 円(2%)、活動会費 357,000 円(1%)

●学校図書室(ハクアンの)開設

2006年度開設追加の学校図書室(ルアンナムター県)及び支援者を報告します(敬称略)。ご支援ありがとうございました。

- HA160 サマキー中学校(ルアン村)
Ford Motor Company(在ラオス)
HA161 トンチャイ中学校(トンチャイ村)
Mr. Hiroki NAKAGAWA(小島華林)

＜東京事務所の動き＞

- 3月
3/2 キックマン(株)東京本社でラオス語絵本づくり(黒古・関)
3/3 活動説明会
3/11 理事会、運営会議
3/12 キックマン(株)高砂工場でラオス語絵本づくり(関)
3/13 対話プロジェクト＜桐朋学園＞(小川)
3/15-21 チャンタソン、ラオス出張
3/16 キックマン(株)野田本社でラオス語絵本づくり(関)
3/17 中期計画評価会議
3/21 対話プロジェクト＜武蔵工業大学＞(森・小川)
3/22-29 野口、ラオス出張
3/31 キックマン食育イベント(赤井)

- 4月
4/1-14 チャンタソン、ラオス出張
4/2 通信39号発行
4/8 理事会、運営会議
4/8 黒古退任
4/21 サバイディー・ピーマイ・パーティ07
4/24 住友商事(株)でラオス語絵本づくり(チャンタソン・赤井・関)

- 5月
5/3 いのりんぴっく2007(チャンタソン・野口)
5/13 理事会運営会議
5/16-24 ラオス事務所スタッフ研修のため来日
5/19 中期計画策定会議
5/22 ラオス人スタッフ活動報告会＜JICA地球ひろば＞
5/26-6/2 大田国際交流週間に参加
5/27 大田区ラオス料理教室(チャンタソン・赤井)

●東京事務所よりごあいさつ

黒古真由はこのたび、出産及び育児のため、事務局を退任いたしました。みなさん、温かく見守ってください、また育ててください、本当に有難うございました。この会で働くことができ、人生の中でいい時間を過ごすことができたと思っています。みなさんと一緒にラオスのこどもで活動できたことは私にとって、非常に貴重な経験となりました。今までありがとうございました。

ボランティア掲示板&おたより

◇事務局に寄せられた声を一部ご紹介します◇

- ・先週カンボジアに主人と2人で旅行に。8年前にラオスを旅したことを思い出しました。多くの人に本が届きますように。(T・Y)
- ・私が小学校のころ読んだ本でよければ、ボランティアに参加します。(K・S)

- ・ピーマイ・パーティおめでと。がんばってこられましたね。ぜひ来年も伺いたいと話しています。ラオスの子どもたちのためにますます活躍ください。(H・S)
- ・今回もラオス語訳を送ってください。新しい絵本を手にしなすと、作業も楽しみになりますね。梅雨空でも、この作業はまた楽しいです。(I・E)

支えてください、私たちの活動。サポーター募集中！

「ラオスのこども」では、7月から新年度がスタート。1982年に始まった当会は、今年で25周年を迎えました。さまざまなプロジェクトを展開しています。

NGOが積極的に活動するためには、会の基盤をしっかりとして固める必要があります。それは、みなさまの力強い応援によって支えられているのです。

私たちが進める活動は、ラオスの子どもたちの教育環境を向上させるために必要なものです。ラオスの子どもたちの未来を更により確実に広げていくためにも、引き続き、「ラオスのこども」の活動を温かく見守ってください。私たち東京事務所・ラオス事務所のスタッフ一同、みなさまのお気持ちに応えるよう努めていきます。なお、今年度からより親しみを感じるよう、賛助会員を「サポーター」という名称に変更いたしました。これからもぜひ、ご支援とご協力をお願い致します。

*活動会員 継続的に活動及び運営をともに担ってゆこうという方。
総会で議決権があります。

年会費一般5,000円 学生3,000円

*サポーター(旧:賛助会員) 活動にはあまり深く関われないが、活動を応援したいという方。総会での議決権はありません。

年会費一口5,000円以上

●一般寄付…活動資金として大切に活用させていただきます。

●指定募金

【もっともっと絵本募金】

図書出版や図書セット配布の支援…一口1,500円

【子どもの未来募金】

子ども文化センターの講座を1年間支援…一口4,000円

【本のある学校募金】

学校図書室1校分の設備費、図書費…一口18万円

★NEW募金スタイル…詳しくは同封のチラシをご覧ください。

※各募金には事務経費が含まれています。

振込先 郵便振替 00140-6-462494 ラオスのこども

2007年度総会のお知らせ

NGOネットワーク

活動会員による意思決定の場として、2007年度「ラオスのこども」総会を、9月8日(土)にライフコミュニティ西馬込で開催します。この1年間を振り返りながら、2006年度事業報告と収支決算の議決、2007年度事業計画と収支予算報告、第3期中期事業報告、第4期中期計画、監査報告などをお伝えします。また、理事の改選も行います。賛助会員は議決権はありませんが、発言は可能です。会員同士の交流の機会でもありますので、皆さま、ぜひご参加ください。総会終了後には、懇親会を開催いたします。

日時 9月8日(土)13:30～17:00(13:15より受付)

会場 ライフコミュニティ西馬込・特別研修室
(東京都大田区西馬込)

交通 都営浅草線西馬込駅南口下車徒歩1分

☆懇親会は引き続き同じ場所で開催します。

懇親会への参加も歓迎です。

時間 18:00～20:30(予定)

懇親会費 1000円程度

総会・懇親会への出席可能な方は、事務局へご連絡ください。皆さまの参加をお待ちしています。

お問い合わせ・お申し込み ラオスのこども事務局

電話Fax 03-3755-1603

メール deknoylao@yahoo.co.jp

来年の洞爺湖G8サミットに向けて

2007年6月、ドイツでのG8サミット(先進国首脳会議)が終わり、次回の洞爺湖での開催(08年の七夕)に向け、NGOフォーラムが発足。ラオスのこどもも参加しています。先進国に住む世界の人口の1%が世界の富の40%を持つ(国連大学世界開発経済研究所報告)といわれます。そうした国々の首脳が集まる会議に向けて、地球温暖化や貧困、平和・人権などの問題について、世界の市民社会の声をアピールしようと様々なNGOが行動しています。来年、洞爺湖で行われるG8サミットに向けては、日本のNGOの90団体以上が集まって、「2008年G8サミットNGOフォーラム」(代表:星野昌子)を立ち上げました。

6月28日には発足記念パーティが開かれ、会からは森が出席。「環境と開発に関するドイツNGOフォーラム」のユンゲル・マイヤーさん、G(ガバメント=政府)とNGO(非政府)をつなぐシェルパと呼ばれる外務官僚、小池百合子(自民)、広中和歌子(民主)ら国会議員が来賓挨拶をしました。

例えば教育において、G8諸国など国際社会は、2015年までに世界中で基礎教育を完全普及させることを約束しています(国連ミレニアム開発目標)。しかし、そうした約束は破られることが多いのが現実です。世界の市民社会が手をつなぎ、その達成に向けてそれぞれの国の政府を監視し、圧力をかけていくことが大切です。その重要な機会となるのがG8サミットです。NGOフォーラムは、貧困・開発、環境、人権・平和の3つの提言ユニットを設け、何が問題点なのかを明らかにしながら、日本政府への提言、報道機関への働きかけなどをしていきます。(森透/共同代表)